

2月全校朝礼

おはようございます。2月を迎えました。

3年生の先輩たちは、高校生活最後のテストを終え、それぞれの形で、次の歩みに向かう準備の時として、約1か月間の研修期間を過ごしています。

すでに進む道が決まり、新しい生活に向けて準備を始めている人もいれば、今も登校しながら、自分の進路と真剣に向き合い続けている人もいます。

どちらの姿も、自分の人生を他人任せにせず、誠実に見つめている姿です。

それは、**自分の命を、これからどのように使って生きていくのか。**

そのことを問い続けている姿でもあると、私は感じています。

先ほど、ヨハネによる福音書15章13節、

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」

というイエスの言葉を、耳にしました。

とても強く、少し厳しくも感じられる言葉かもしれません。

「命を捨てる」という言葉に、驚いた人もいるでしょう。

特別な人や、特別な場面の話のように感じた人もいるかもしれません。

けれども、先週の聖句の紹介で三浦直子先生のお話を聞いて、この言葉が、**私たちの日常の生き方そのものを問う言葉**であることに、気づいた人も多かったのではないのでしょうか。

イエスが語られたこの「命」とは、単に生きる・死ぬという意味だけではありません。

自分の時間を、自分の力を、自分の心を、何のために使うのか。

その問い、そのものです。

1・2年生のみなさんは、2週間後に総括テストを迎えます。

テストは大切です。

これまで積み重ねてきた学びを振り返り、自分の力を確かめる大切な機会です。

けれども、ぜひ心に留めておいてほしいことがあります。

テストや進路、それ自体が、人生の最終目的ではないということです。

それらはすべて、

「自分の命を、どのように輝かせて生きていくのか」

「誰かのために、どのように自分を使っていくのか」

その問いに向かって歩んでいくための、**一つの手段**にすぎません。

三浦直子先生のお話の中に、

「**命は一人のものではない。誰かの笑顔や未来と結ばれている**」、という言葉がありました。

勉強することも、進路に悩むことも、テストに向き合うことも、

すべては、自分一人のためだけにあるものではありません。

いつか、誰かを支えるために、誰かを守るために、そして、誰かの喜びを、自分の喜びとして生きるために。今は、その土台となる力を育てている時間なのです。

イエスが語られた「命を捨てる愛」とは、誰かのために時間を使うこと、誰かのために心を向けること、誰かのために、自分の都合を少し後にすること。そうした、小さな選択の積み重ねのことです。

今、迷っていても、立ち止まっても、大丈夫です。

大切なのは、

「自分は、どのような人として生きたいのか」

「誰かのために、どのように自分の命を使いたいのか」

その問いを、心の中に持ち続けることです。

まもなく、バレンタインデーを迎えます。

大切な人に感謝の思いを伝えるこの時期に、

今日の聖句の言葉を、少しだけ心に留めてみてください。

それぞれの場所で、それぞれの課題と向き合っている皆さん一人ひとりが、

誰かを思う小さな選択を重ねながら、

自分の命を輝かせて歩んでいけますように。

終わります。